修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（嵯ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3—36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

本年度三地区修旅連絡協総会で挨拶する顧問の山本種一全修協理事長。

本年度春季・三地区

修旅連絡協総会開く

積極的な運動展開へ

全修協との連帯強めて

よりよい修学旅行をめざして—をテーマとする関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連絡協議会の本年度総会は七月四日から二日間にわたり静岡県修善寺町の修善寺ホテルで開催。学校行事としての修学旅行が抱える諸問題の解明に、本年度も総力をあげて取り組む決意が随所に表明された。これに対し顧問の全修協山本理事長は積極的な協力をあらためて強調、全修協組織あげての連帯によって運動はいよいよ拍車がかけられるものと期待される。役員改選では会長に野呂正光氏（愛知）副会長に河又英一（栃木）南裕之（大阪）両氏が選出された。なお福岡県からは森田武（福岡市立舞鶴中学校長）八尋静夫（同市立千代中学校長）両氏がとくに出席した。

午後二時、福井繁会長（前大阪府河内長野市立長野中学校長）につづいて、顧問の全修協理事長・山本種一氏は次の通り挨拶を述べた。「修学旅行が生徒のために存在するという認識のもとで、この一年間、三地区修旅連絡協が教育界に残された業績は輝かしいものであった。清水幾太郎氏は〝民族の歴史と生活に築かれた伝統を基盤に育てあげられていくのが教育である〟といわれたが、修学旅行も学校教育の基幹活動というべきである。この三地区修旅連絡協がますます組織を強化し、生徒たちのための修学旅行をさらによくするよう皆さんの絶大なお力添えを願いたい。また、九州からも遠路ご参加の両先生に対し厚くお礼を申しあげる」

福井繁会長が議長となって議事に入り、事務局から五十四年度の事業報告が行われたあと役員改選があり、別項の通り新役員を選出した。特別委員についてはさらに検討を加えることになった。

新旧役員の挨拶で前会長の福井繁氏は「かつての与えられることから最近は要求の時代へと変わってきた。要保護・へき地の修学旅行補助金や、貸切りバス料金の問題も要求したからこそ進展をみている。これらの運動は全修協の全面的な協力を得たためであって、ここにあらためてお礼を申しあげたい」と述べ、また、新会長の野呂正光氏は「重責を全うできるかどうか、各位のご支援により所期の目的達成のため努力したい」と決意を表明した。

事業計画のうち、すでに四月には春闘の国鉄スト時の修学旅行列車の運行確保について国鉄、国労、動労への陳情、また、国鉄運賃値上げに際し修学旅行は旧運賃適用の要請などを行ったが、十一月開催予定の秋季総会、研究諸活動と強力な陳情運動の展開などが挙げられ、いずれも承認された。

秋季の総会については学校行事その他の会合の多い時期にあたるため出席困難であるとの意見が出た。研修会、連絡会などに切りかえる方法、運営委による会合にするなどいろいろ検討の結果、事務局と運営委で調整し具体案を作成することになった。

当面する諸計画と対策では各地区修旅委の報告があり、関東からは栃木県で研究発表会の開催、五十七年度の生徒増による輸送計画、東北新幹線開通をひかえての東北地方現地研修会、さらに例年の関西地方への現地研修会の実施など。近畿からは貸切りバス料金について陸運局への陳情、滋賀県ではひかり号の米原停車による生徒増の期待などがあげられ、また東海からは在来線「こまどり号」の車内改装、「こだま号」の混乗による一般乗客との摩擦対策、さらに東京駅八重洲北口のバス駐車場の狭隘について善処方の要望もあった。

九州の福岡県から「北九州地区の修学旅行が本州へ来ているほかは九州内部で実施している。校長会に修学旅行委員会があり、その活動は今後に期待するところが多い」との発言があった。生徒の修学旅行費の公費負担、付添い教職員の旅費などの問題では各地区から次の通り発言があった。

東海では一村だけが修学旅行費全額公費負担されている。また、付添い旅費は、修学旅行を別枠として人数を制限、全額支給（愛知）管理組合で県に要求中（栃木）などがあったが、一般旅費からの捻出が大部分のようだ。

顧問の全修協理事長・山本種一氏は「生徒の修学旅行費のうち交通費だけ公費負担とする東京・中野区の例もある。引率教職員の旅費は確保しないと暗いものになり勝ちである。また、生徒の非行については修学旅行に行ったのが原因という例もあるようだが、これは生徒に対する十分な管理が欠けていたためと思われる。修学旅行の育成に全修協としては教育面、経済面での協力を惜しまない。前述のように子どもたちのための修学旅行でありたいからである」と述べた。

へき地児童生徒に対する国庫補助金は従来の三級以上に一—二級も含めるよう要請することになり、また、心身障害生徒の修学旅行について事務局から東京都内二校の実態が報告された。

最後に議長野呂正光氏の挨拶があって午後五時第一日を終了、夜は同所で新旧役員の歓送迎会が開かれた。翌五日は沼津市の御用邸記念公園、若山牧水歌碑、井上靖文学碑などを見学し午後一時三十分三島駅で解散した。

会長に野呂正光氏

本年度の役員

本年度の役員は次の通り。（順不同・敬称略）

【会長】野呂正光（愛知県江南市立布袋中学校長）

【副会長】河又英一（栃木県宇都宮市立陽北中学校長）南裕之（大阪府河内長野市立長野中学校長）

【運営委員】高橋尹敏（埼玉県鳩ケ谷市立鳩ケ谷中学校長）金津拡（三重県四日市市立笹川中学校長）谷田隆（兵庫県宝塚市立中山五月台中学校長）熊井重修（財団法人・全国修学旅行研究協会調査研究部長）

【顧問】山本種一（財団法人・全国修学旅行研究協会理事長）

【参与】前田寛（財団法人・全国修学旅行研究協会事務局長）

【事務局長】熊井重修（前出）

暑中お見舞い申しあげます

昭和五十五年　盛夏

財団法人　全国修学旅行研究協会

理事長　山本種一
常務理事　永井熙
同　村山助雄
同　成瀬治
理事　高田治郎
同　完戸一郎
同　青山良道
同　魚谷時太郎
同　辻原弘市
監事　芦田重左衛門
同　尻一雄

本部事務局
局長　前田英寛
総務　神部夫
経理部長　金谷ユキ子
広報部長　早川泰雄
庶務部長　藤田勝次郎
調査　熊井重修
研究部長　竹内雅量
中央研修部主管　内山憲二
中央研修部員

大阪事務所
所長　曽田震五
同所員　貴志吉子

名古屋分室
分室長　鬼頭藤松

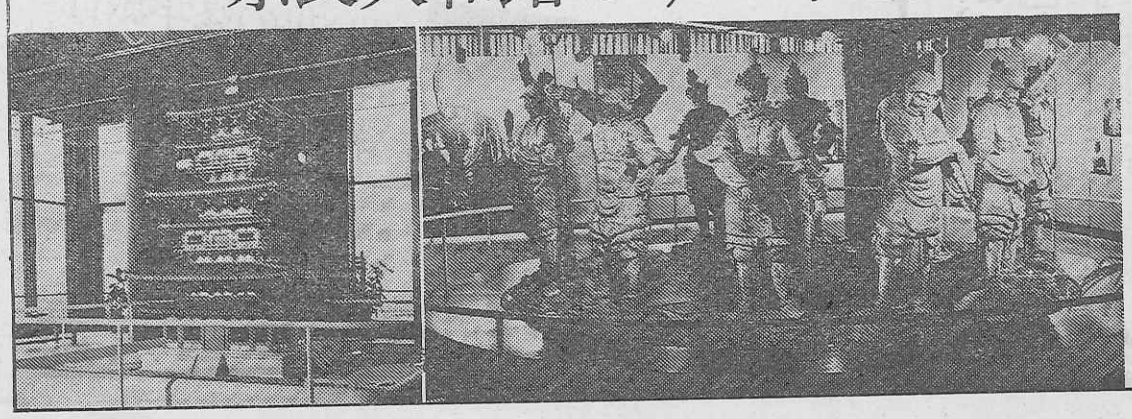
本部相談役　白滝末紀
参与　鈴木春之助
調査役　岩崎武夫
同　森本良雄
同　小西惣二郎

消息　▼財団法人・福島県教職員互助会の理事長に県教育長の辺見栄之助氏が就任▼秋田県学校生活協同組合の専務理事に斎藤正喜氏が就任。

風紋

全修協主催の研修旅行のうち、ことしも圧倒的な人気を集めたのは尾瀬コースであった。われわれの周囲に残されたすばらしい自然に触れようと願う教職員で満員となり、やむなく申し込みを打ち切ったほど。交通機関は別として、宿泊する小屋が自由にならないのである。豪華な観光旅館とは違い尾瀬では山小屋である▼尾瀬沼のほとりの長蔵小屋は父子三代にわたる経営だが、初代の平野長蔵氏が大正のはじめ、この尾瀬に入ったときは一軒の家もなく、一年間に通り過ぎていったのは猟師や樵夫だけの三十人ぐらいだったという。夏でも冷えこむ夜を掘立小屋でムシロ一枚で過ごす長蔵氏は、尾瀬に学生村建設の夢を持っている篤学の士であった▼三十歳を前にして二代目の長英氏、その長男の長靖氏が三代目。この孫は京大を出て新聞社に入りすぐ退職して尾瀬に来た。しかし四十六年十二月、下山の途中に寒さと疲労のため遭難死した。三十六歳の若さであった。長靖氏は尾瀬の自然を守るため東奔西走し、当時の大石環境庁長官と会って自然破壊の現状を訴え、自動車の建設阻止に成功したことは記憶に新らしい。尾瀬では人間と自然の接点が大きな悩みであり、長蔵小屋の平野父子三代も自然保護と開発を願う一部住民と、自分の小屋の経営の間にあって悩みつづけているといえよう▼薄紅いろのショウジョウバカマ、毛帽子のワタスゲ、そしてミズバショウの花が消えるとブナやダケカンバの緑が萌え、タテヤマリンドウ、レンゲ、ツツジにつづいて七月には池塘にオゼコウホネ、ヒツジグサの可憐な花がのぞく▼朝ひらいて夜しぼみ再び咲かぬニッコウキスゲも尾瀬の花。やがてサラシナショウマやアキノキリンソウなどが早い秋を告げ、青紫のエゾリンドウが最後となる。はるかな燧ケ岳と霧の流れる湿原を父子三代の長蔵小屋の窓から眺めながら、自然とはこんなに美しいものかと驚くのである。（は）

奈良大和路の1,300年を、1ヶ所にあつめました。



奈良歴史教室

日本のふるさと〈奈良大和路〉
その素晴らしい歴史・文化・美術から年中行事・観光の見どころまで
模型・写真・スライドなどでわかりやすく解説。
大和路をより深く　より楽しく理解できる歴史教室に
ぜひ　お立寄りください。

入館料……200円　こども100円　団体（25人以上）は割引
営業時間……平日10時～18時
日曜・祝日10時30分～18時30分（月曜休館）
●お問合せ…近鉄奈良駅ビル4・5階　☎0742（24）3901

近鉄

夏季

研修旅行はじまる

いっせいに南へ北へ

出発に際してのご注意

第二十四回全修協主催の研修旅行はいよいよ七月二十三日発の北海道Aコース九州団を皮切りに八月二十七日帰着の同コース各地区団まで全七十八団、約四千名におよぶ全国の教職員が参加して実施される。このほかヨーロッパ・ロマンティック街道、第六次友好訪華団の派遣も含めて今夏の教育界は研修旅行一色となる。各自好みのコースで研修の成果があがるよう全修協本部では希望している。本紙では参加者に対するご注意を掲載、ご参考に供した。

▼出発前、皆さまにお送りしたもの。

①ご参加の皆さまへ（諸注意記載のもの）

②研修のポイント（コース別解説パンフレット）

▼出発当日、受付などでさしあげるもの。

①行程表。

②ワッペン（旅行団の目印となりますから必ず左胸に着用）

③参加者名簿。

④参加記念品（折りたたみ軽便バッグ）

▼旅行中にお渡しするもの。

①研修旅行写真コンクール要項と応募票。

②アンケート用紙（旅行中に記入し、旅行終了時に添乗員にお渡しください）

▼服装と携行品

①服装は軽装。はきものはふだん履きなれた靴で、あまりカカトの高い靴は不向きです。

②北海道、木曽・飛騨路、尾瀬などのコースは薄手のジャンパーかセーター、または上衣をご用意ください。

③雨具（折たたみ傘、ビニールの合羽など）

④健康保険証または共済組合員証（携行できないときはその記号番号などメモしておいてください）

⑤洗面用具、着替えなど。

⑥常用の薬品は各自でご用意願います。

▼医療関係など

①解熱、鎮痛、下痢止め、傷ぐすり程度の薬品は添乗員が携行しています。

②医師の診療を必要とするときは現地で手配します。

③特殊の薬品を購入したとき、医師の診療をうけたときの費用は各自でご負担いただきます。

▼座席と部屋割

①飛行機や列車の座席割は「搭乗（乗車）の際に添乗員からお知らせいたします。②寝台車では年齢による配慮はできるだけいたしますが、国鉄からの上中下段割当数の関係で十分な配慮ができぬ場合もありますのであらかじめご了承ください。③食切りバスの座席はとくに指定しませんが、団長、添乗員の指示にしたがい、適宜交替するようご協力ください。

④旅館の部屋割などは当日ごとに添乗員からお知らせいたします。

▼その他

①出発日の出発時刻が八時三十分以前の場合は朝食、十八時三十分以前の場合は夕食をそれぞれ用意します。

②帰着日の到着時刻が七時三十分以前、または十八時三十分以前の場合にはそれぞれ朝食、夕食の用意はありません。

▼尾瀬の探勝コース

①服装は軽装で結構ですが、気温の急変に備えてセーター、長袖シャツなど一、二枚を用意してください。

②はきものは登山靴かキャラバン・シューズが最適です。

③帽子、雨具（折りたたみ傘かビニール合羽）も忘れずに。

④携行品はすべてリュックサック、またはナップ・ザックにまとめてください。手さげのバッグなどは不適当です。

⑤そのほか懐中電灯、水筒、軍手も持参されたほうが安心です。

■自然保護のため空き缶などは必ず持ち帰ること。また、植物の採集は絶対にしないように。

ご不明の点は各都道府県の申込み先きか、全修協研修旅行実施本部＝電話〇三―二六二―二九三二・二四二六へ。

研修旅行のコース

一般コース

▼北海道一周A▼北海道一周B▼北海道ハイライト▼知床・納沙布▼利尻・礼文▼奥東北▼東北一周▼佐渡が島と加賀▼佐渡・磐梯▼木曽・飛騨路とアルペンルート▼信濃路▼吉野・熊野と高野山▼九州一周▼芸予諸島▼沖縄と八重山。

特別研修

▼奥の細道（芭蕉を訪ねて）▼尾瀬の探勝▼近江路と京都。

退職者向け

▼沖縄と石垣（近畿のみ）

海外コース

▼ヨーロッパ・ロマンティック街道▼第六次友好訪華団

全修協の友好訪華団を歓迎（北京実験第二小学校で）

全修協・友好訪華団の成果

中国の大学生と交流

―日本留学時は自宅で起居も

喜多四郎

昨年、十五日間にわたって行われた財団法人・全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）主催の第五次友好訪華団に参加した学校長による参観記「中国・見たり聞いたり」が発行された。（写真）この旅行に参加、また同書に寄稿した喜多四郎氏（元大阪市立大宮中学校長）は全修協本部あてに次のような書簡を寄せられた。同氏によると成都で中国青年と知り合って現在も文通が続き、日本留学が実現したら自宅で起居させてあげたいという。〝日中友好は人の和から〟の実例のひとつでもある。

☆　☆　☆

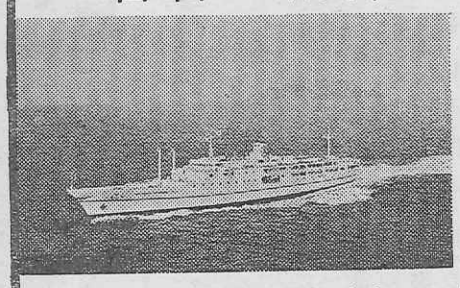
訪れた中国の北京、重慶、成都昆明、上海のケタ外れに壮大な遺跡、名勝にただただ驚歎、讃歎するばかりであったこと、各種の工場、幼稚園、小、中、大学校を見人民公社、友誼商店、新村（団地）を見てはそこに働く人々、学ぶ児童、生徒、学生の農、工、国防、科学技術の四つの近代化を目指して邁進している懸命な態度に感歎敬服するのみであったことをまざまざと思い出し感無量でありました。

千載一遇の好機に恵まれたといいますか、私は何としても一度中国へ行ってみたいと思っていましたところ、貴協会が企画された第五次日本教職員（学校長）友好訪華団に友人二人とともに参加させていただくことができまして、この足で中国の土を踏み、この眼で十億の民衆が一致団結して、新しい中国、中華人民共和国を築きあげ、四つの近代化を目指して挙国一致で邁進している現代のすばらしい姿を眺め、学ぶべき多くのものを得、私の中国観を新たに、かつ深め得たことは本当にありがたく、また幸わせなことでありました。

成都の四川大学を訪問した際、同大学日本語科の学生、李樹雄君と親しくなり、いらい文通を続けていますが、李君は日本語がとても堪能で、私にくれる手紙は日本人も及ばぬような名文で、中国語の分らない私は大助かりです。彼は純真、真面目な青年で、何とかして留学生試験にパスし、憧れの日本へ留学したいといっているので、それが実現したら近畿の場合には拙宅で起居できるよう取りはからいたいと思います。個人の交友が日中友好の基調なのですから。

この友好訪華団に参加でき、また、真面目な青年を親友として得られたことの二つの大きな収穫に、私は企画された貴協会に感謝をささげるとともに、今後も日中教育関係者の友好が深められることの企画を続けてほしいと思っています。

若者・紺青の海・純白の船



貸切専用純客船

さくら（13,000トン）

ひかり（4,000トン）

・スケジュール・コースはご自由に
・旅客定員 1,800名
・サロン・休憩室・医務室完備
・船内でのグループ活動・学習に最適
・全室エアコン完備
・一般客との混乗なし

Ⓐ大島運輸株式会社東京支店　東京都中央区日本橋通1－3－11 浅野ビル9F　TEL 03-273-8911

蓼科

高原の四季・静かな憩い

蓼科高原、白樺湖へ登り、さらに女神湖へ出て「女神湖ホテル」に泊った。

シーズンオフの高原のホテルというのはいいものだ。歩いて一周三十分の女神湖。

『白樺が群生していて湖があって、しかも名前が女神湖でどうですか。教会を建てなさい。そこで結婚式をやるんです』

☆

「女神湖ホテル」から霧ケ峰をぬけて旧中仙道で山を下りた。木曽もいいが、山を下って追分までの中仙道の宿場の風情はわざとらしさが無くて、しかも世の中のうつりかわりを感じさせるところが好きだ。

永六輔〈終りのない旅〉より

女神湖のほとり、山の湖のロマンをそのままに漂わせるようにたたずむ明るく清潔なホテル。

女神湖ホテル　〒384－23 長野県北佐久郡立科町芦田 電話 02675－5－6006

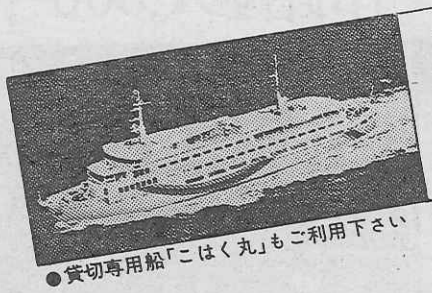
案内所　東京：千代田区内幸町2－2－2富国生命ビル 電話03－591－8844　大阪：北区小松原町2－4フコク生命 電話06－312－8988

学ぶ、残す、自己を見い出す修学旅行にしたい。ツーリストがお世話します。

ツーリストは学校の主体性を尊重し、その特性に沿った個性ゆたかな旅づくりと積極的に取組んでいます。地元警察や病院などとの協力体制を密にし、万が一の事故にも万全の構え。また、事前指導用の修学旅行映画を制作し、指導の推進をバックアップ。多彩なご要望に綿密なプランですばやくお応えしています。

近畿日本ツーリスト　運輸大臣登録一般旅行業第20号

KANSAI KISEN



思い出の修学旅行 印象的な、瀬戸内海の船旅

●貸切専用船「こはく丸」もご利用下さい
●阪神／別府航路（毎日3便）
●阪神／小豆島・高松便（毎日1便）
●東神戸／日向（宮崎）フェリー（隔日1便）

お問合せは＝大阪市北区梅田1-1 ☎06－344－7031
東京都中央区八重洲1-4-14 ☎03-274-4273
ほか、各地支店駐在員・旅行代理店へ

関西汽船